



「お弁当給食」ってどんなもの？

これまで週に1回（またはなし）だった「お弁当給食」。2022年度は週1回、5回、0回（給食を申し込まない）から選べるようになります。そこで改めて、台桜幼稚園が導入している「お弁当給食」についてご紹介します。

業者はどこ？

株式会社わくわく広場。
「給食時間をもっと豊かに」との思いから、自身も二人の子を持つ女性が創業した会社

アレルギー対応は？

業者が定めているアレルギー対応が可能な食材のみ除去できる。ただし、医療機関での検査結果等の提出が必要

給食費はいくら？

1食225円。ただし、区民税所得割額または同一世帯の小学3年生以下の子どもの数によっては免除される場合も

回数は変更できる？

事前に申告すれば変更できる。「給食はちゃんと食べられるか心配」という場合、週1回から始めてみるのもアリ

年少組の反応は？

おうちのお弁当はもちろん大好きな子どもたちですが、みんなで同じものが食べられるお弁当給食も楽しい様子です。苦手な食材にも頑張って挑戦する姿が見られますし、完食する子もいるんですよ！でも食欲は日によっても変わります。「無理せず食べられる分だけ食べればいいよ」と声掛けしています。



（左）ごはん・鶏肉と野菜の甘辛煮・カニかまのり巻き天・いんげんのおかか和え・厚焼玉子・バナナ

（右）ごはん・タラの磯辺焼き・人参とコーンのソテー・ナスのおろし和え・ウインナーチャップ・チーズフライ・河内晩柑



台東区立幼稚園の特色って？

私立園を選んだ保護者から「公立の園ってあまり特徴がないように感じて……」といった声を聞くことがあります。果たして本当にそうなのでしょうか？ 園長先生に「台東区立幼稚園の教育方針や園児への思い」を教えてくださいました。



「非認知能力の育成」に重き

台東区立幼稚園は、意欲や態度といった「見えない力」の育成を大切にしています。具体的には「見たい」「知りたい」と興味を持つ力、「やってみたい」を行動に移す力、TPOに即した態度を取れる力などです。

公立園は特定の宗教や思想を持たない分、特徴がないように見えるかもしれません。でもそれは、歴史や伝統に縛られないということ。必要に応じて柔軟に変化しています。

毎日のあそびの中に「ねらい」と「学び」

幼児期にもっとも大切なのは「あそび」です。「なぜ？」「何？」と探求した経験、想像をふくらませてあそびを深める、展開させるといった経験があると、小学校に入っても学習内容が身に付きやすいと言われています。

一斉保育の方が教育的だと思われがちです

が、自由保育のあそびの中でも様々な「ねらい」に基づいた働きかけが行われています。たとえば、はさみの使い方をマスターするための工程を取り入れたり、自分のイメージを言葉で伝える力を伸ばすために質問してみたり……。教員は園児一人ひとりをよく観察し、迷っている子やつまずいている子にもタイミングよく声掛けしてサポートしています。

自信をもって行動できる子に

幼稚園は、5歳から3歳まで「年子のきょうだい」を預かっているようなもの。年下の子が困っていたら助けてあげる。年上の子の行動を見て「すごいな」とあこがれる。そうした異年齢の自然なつながりからも「自己肯定感」は育まれます。園生活を通して、一人ひとりが自立し、自信をもって行動できるようになってくれることを目指しています。